



## 年老いていく日本

IMF ブログ

2019年1月15日



団らん中の日本の家族。日本では今後30年間に人口の高齢化と減少が進んでいくだろう。

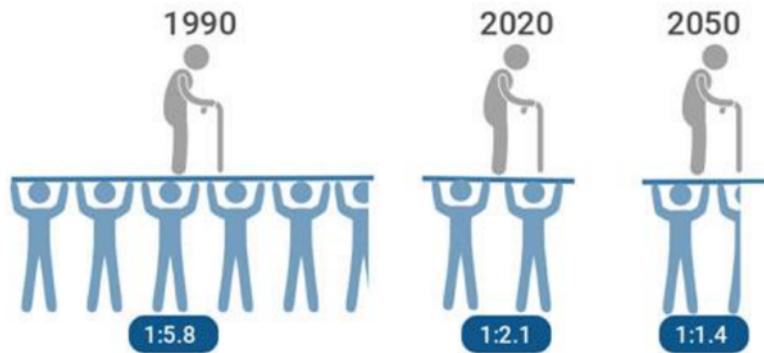
(写真: JohnnyGreig/iStock)

日本では安定した経済成長が長く続いてきた。政策面では6年間にわたる「アベノミクス」の実施を通じて、財政赤字の削減や過去最低水準の失業率、女性の労働参加率の上昇が達成された。しかし、人口の高齢化と減少という人口動態上の逆風が強まるにつれて、経済と金融セクターの課題がますます大きくなろうとしている。

日本経済に対する最新の評価からご紹介する今週のグラフでは、今後いかに日本の人口が減少を続け、15～64歳の人口に対する65歳以上の人口の割合を表す従属人口指数がさらに上昇していくのかを示している。高齢者の医療や年金の費用をまかぬという課題に取り組むために、政府は今後数年間の債務と赤字の削減に向けた、具体的で信頼できる中期計画を策定する必要がある。

## 重さを増す負担

2050年までに、日本の従属人口指数は世界最高水準の75%近くにまで達する。  
(15~64歳人口に対する65歳以上人口の比)



出所：日本内閣府「平成29年版高齢社会白書」



1月15日には、高齢化する世界における貯蓄と年金の未来に関するIMFの最新の研究と分析、ブログが発表される。

関連リンク：

[Japan and the IMF](#)

[5つのグラフで見る日本の経済](#)